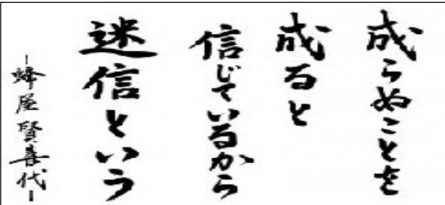


あゆみ通信

VOL148

あゆみの会（真宗大谷
派大阪教区第2組同朋
の会推進員連絡協議会）
会長 細川 克彦
広報 本持 喜康

念仏者は無碍の一道なり 歎異抄



親鸞聖人も古聖賢も人間である。人間である以上は我々の心と違うところは無いけれども自分を愛し自分を幸せにしたいというについて、そのやり方と行き方が違うのである。世人が往々、教えの意が得られぬというのは、その着眼点が違うからのことである。けれども考えねばならぬのはこの点である。聖人は種々の外圍の物によって自分を幸せにしようとはせられなかった。それは到底それらによって本当の幸せの得られぬことを知っておられたからである。それらは単に一時的であって根本的のものでないからである。だから一歩進んで精神上について考えられたのである。すなわち自分の魂を幸せにしようと願い魂の苦しまぬようになりたいと思い、努められたのである。

我々の考えは、自分が幸せになるためには、足らぬものを付け加えたら、それで幸せになると思っている。それは最も普通の考えであるけれどもそれは外からの一時の塗り薬で内臓の病気を治そうとするようなものである。外のものであるが思うようにならぬからと悩んでいるけれども、実は皆魂という核心の悩みであるのである。月を観る人の心によって月は悲しくも嬉しくも観えるのと同じである。問題は核心の問題、魂の問題である。

病に罹ると病人は苦しいと言う。たとい手足をもがかず

ともずいぶん悩むものである。けれども苦しいというのは、病気そのものよりは、病気によって種々様々なことが、案ぜられたり、恐れられたりして、病気よりも却ってそのやきやきと心配したり、夢んだり、落胆したりもがいたり、もどかしくなると腹が立ったりするほうが、よほど苦しいのである。それは皆魂の病気であり、魂の悩みである。多くの人は病の苦しみと魂の苦しみとを一緒にしたり取り違えたりしている。であるから我々は何よりもまず魂の健全を謀らねばならぬのである。何につけても魂の悩まぬ方法を講ぜねばならぬのである。古聖が金や財産や権勢や名声に目をくれずして、一向に道を求められたのは、魂一つを尊重して、その魂の病まず悩まぬ道を求められたのである。実はそれが本当に自分を可愛がり自分を幸せにすることである。

「念仏者は無碍の一道なり」知親鸞聖人の叫ばれたのは、今までは種々のものに悩まされ障礙せられて、魂が常に行き詰まったり倒れたりしたのが、何事に逢うても悩まされず行き詰まらず、広い野原に出たような魂の自由を喜び叫ばれたのである。（蜂屋賢喜代「人間道」法蔵館より）

第2組聞法会案内

日時 7月24日(土) 午後2時
会場 宗恩寺(天王寺区四天王寺)
講題 「共に学ぶ『正信偈』」
講師 新田 修巳先生
(平野区 正業寺)

参加費 500円
コロナ感染状況によっては変更される場合があります。各自、ご注意ください。

当たり前は有り難し

5/10には「あゆみ通信」6月号の編集を完成していたのですが、PDFに置き換えるのを怠ったため、突然のパソコンのハードディスクの損傷により、編集ソフトをはじめ、officeやメールを作成するOutlookや、住所を管理する筆まめのソフトが全部消え、そして保存していたデータが消えてしまいました。

実は、2019年にWindows10入りのパソコンを買って、2020年の8月に同じことが起こり、修理に出したところWindows10が再入力されて戻ってきたため、難儀したことがありました。バックアップの大事なこと。大事なものは、別のところに保存しておくことを、その時設定していただいたメカニックの先生に教わったはずなのに。油断していました。同じ過ちを繰り返してしまい、皆さんにご迷惑をかけることになってしまいました。

表題は、休刊のお知らせを組内へしたときに、ある坊守さんからいただいた言葉です。あつて当たり前、動いて当たり前、そのそんな日暮らしでした。

聞法のたびに、お聞きしていることですが、わが身に沁みこんでいませんでした。

前回の際に、80歳になって、同じことが起こったらパソコンは辞めようと決意しましたが。

折からのコロナの緊急事態宣言の中、メカニックの先生に無理も言えず、メールでいろいろ教えてもらいながら、かろうじてMicrosoftに電話し、遠隔操縦でofficeを入れてもらい、WordやExcelが使えるようになり、また、編集ソフトも自力で何とか取り込めました。もちろん、保存していたデータは何一つありませんが。朗報は、見かねたメカニックの先生が、宣言発令の中、これは必要不可欠のこととして、来訪していただき、再設定をしていただくことができました。感謝感激。早速、バックアップするべく外付けハードディスクを購入しようと思います。お詫びして再開です。（本）

紙上法話 大無量寿經の仏道④ 延塚知道先生



ところが「阿弥陀經」だけは、違うんや。舍利弗に説いた。舍利弗は最も優れた人や。だけど、お釈迦さんは、わざわざこの人を呼び出して、「舍利弗よ、おまえ人間の世界で、一番優れた能力を持って、一番よう出来ると思ってるやろう。それ、あかんのやわ。浄土が分らんとあかんのやぞ」と言って。わざわざ舍利弗に説く。



舍利弗

だから、人間の世界で能力があるとか仕事がよくできるとか、それ違うんや。でも、そんなら、出来ん方がいいかと言ったら、それもあかんのやわ。出来るということを誇りにしとる人は、仏法に会えんのや。出来てもいいけど、出来るということを誇りにしたら仏法に遇えんのやぞと。

だから、浄土にちゃんと遇わんとあかんのやぞという風に、わざわざ出来の良くない人に説いた經典を、一番出来のいい人の所へ持って行って「ちゃんと分らな、あかんのやぞ」と言って説いとるのです。

だから浄土三部經と言うのは、お釈迦さまの非常に懇切丁寧な説き方しとるのやな。出来ん人にも出来る人にも、そこに本当の意味での、「一乗」という意味がある。

頭がよくて申し訳ない

ここに先日お話しに見えられたそうですが、寺川俊昭先生、あの人、すごくできる人なんです。東大をトップで出

た、ものすごく頭のいい人です。僕らの数倍は、頭いいね。それがね、自分が頭いいってことを、いつも仏さまの前で懺悔されとる。

寺川先生が大谷大学の学長をされてた時、若い学生さんを東大に留学させたんや。「留学して、ちょっと外に出て勉強してこい」って言うようなものやね。

それで留学が終わって、学生が寺川先生に挨拶に来たんや。僕も学長室に呼ばれて行った。学生に「どうやった」って聞いたら、「東大はやっぱりあかんわ。みんな頭がええ。もう、僕ら追いつかんわ。もう、みんな頭がいいやつばかりですわ」って。

僕は怒ったんや。「何言うとるんや。お前、頭がええっちゅうことに、びびってどうするんや」「仏法に触れたっちゅうのは、頭が悪い奴はそのまま、良い奴はそれなりに、や。どっちも凡夫ちゅうことから言うと、良いか悪いかは関係あれへん」「頭がええっちゅうのは、お前、欠点やぞ」言うて。

そう言っとなら、寺川先生がぱっと立ち上がって、「すいません」「申し訳ありません」と言って、あやまりはんのや。それで、僕は「いや、そんなことを言うとするんじゃなんです。すいません」って言うのに、寺川先生は「いや、本当に申し訳ないです」って言われる。

頭いいことが欠点やうことを、よう知つとられる。やっぱりあそこまでになつて、頭がいいということが^{まっ}全うされる。どうせ頭がええんやったら、あそこまでいかんといかん。中途半端なんはいかん。經典にはね、そういう特徴がある。

スカッと切ってくれる

それでこの「大無量寿經」は、お釈迦さまと阿難の出会いからはじまるのや。そりやそうやね、さっき言ったように仏教は、自分で分かったつ

ちゅうのは、やっぱり「うそ」やと。自分で分かったって言うのはな、夜に寝ると頭の中がぐるぐる回るんや、分かったような気がして。

そやけど、「ああ」となって、また元んところに帰る。同じとこ、ぐるぐる、ぐるぐる回るわ。それをスカッと切ってくれるのは、やっぱり先生に会うってこと。だから先生に会うてるかどうか、と言うのが仏教が「ほんもの」かどうかの証拠や、と僕は思う。

自分で自分のこと分らん。仏法の教えに出会って、鏡に照らされるようにバチッと決まる。でも自分で自分のことを考えとると、結局は「俺も少しはいいところあるで」と、言いたくなってくる。それは、仏教によく似とるけど違う。

凡夫を救うため

親鸞聖人がね、出会いから始まる仏教を「教行信証」行巻に書いておられる。その文章が短いのは、「大經」の中のお釈迦さまと阿難の出会いのところでだけ引用されてるから。「大經」は上巻と下巻の長い經典です。



阿難

だのに、出会いのところでだけ引いてある。その長い「大經」の深い意味を、短い言葉で言っている。「大經」はどういう經典か、何が説かれて

いる經典か。この經の大意は、弥陀が誓いを超発して、広く法蔵を開きて、阿弥陀さんが誓いをおこして、本願を建てた。この經典は、阿弥陀さんが本願を建てたと言う經典である。そして、広く法蔵を開きて凡小を哀れんだ。凡小は、凡夫。凡夫を救うために、本願を説いた經典である。(つづく)

(挿入してる舍利弗と阿難は、版画家故棟方志功氏の「釈迦十大弟子」より引用させていただいた)